

平成 22 年度 推薦入学試験問題

小 論 文

教 育 学 部

学 校 教 育 教 員 養 成 課 程

言 語 ・ 社 会 教 育 系 社 会 選 修

注 意

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- ② 問 1 は解答用紙（その 1）を、問 2 は解答用紙（その 2）を用いて、指定字数にしたがって、横書きで記入しなさい。
- ③ 受験番号は、解答用紙ごとに所定の欄に記入しなさい。

問題 次の資料を読んで、後の問1及び問2に答えなさい。

資料

私は、北海道の東北部の小さな町に生まれ、育った。旅の最初の記憶は、網走市と密接に結びついている。旅、それは汽車に揺られて網走市という、自分の育った町より大きな町へ行く経験であった。そこは自分の知らないものが一杯あるような期待に満ちた地平であった。

網走の町で、最も魅惑に満ちた場所とはどこであったろうか。それは、最近鬼籍¹⁾に入られた米村喜男衛さんという、むかし理髪店を経営していた人が創設し、管理していた「郷土博物館」である。この建物自体、木造平屋を見慣れている子どもに、どこか異郷を思わせるドーム型の屋根を持つ何か別のものの「しるし」であった。この博物館は丘の上にあったから、そこに行き着くのに、坂を登りながらゆっくりう回して行く道があった。しかし、休みに私を網走に連れて行ってくれた店の小僧さん（使用人）たちは、近道である崖^{がけ}を登るほうを選んだ。そのため幼い私もこの崖を這うようにしてよじ登らねばならなかった。後年、高い山から谷底へ、谷底からよじ登って村から村へ移動していた時、ふとこの幼少期の記憶が鮮明に蘇^{よみがえ}ってきたことがある。何年経っても同じことをやっていると、私は思わず苦笑した。偶然、二つの経験の心象が重なったのか、原型を反復したくて人類学のような学問分野を選んで、あえて似たような状態を再現しているのかも知れないとふと思ったからである。

この博物館は、また別の意味でも異郷であった。博物館の内部は陳列棚で満ち満ちていた。陳列棚は、そのガラスの反射のゆえか、われわれをうっとりさせるものがある。私の家は菓子屋であり、店には、そうしたショーウィンドウやショーケースがあったが、内側から、いつも手の届くところにあるものとしてのショーケースには特別の吸引力はなかった。それらは、手にとって「外」と「内」を繋ぐ空間のしるしでしかなかった。しかし、玩具屋さんのショーケースの魅惑といったら、これはたいへん強烈なものであった。もちろん玩具屋さんの空間が、一種の異郷であったから、それは子どもにとって、尽きることのないノスタルジ一の源泉であったといえる。考えてみれば、当時の一銭、二銭という小遣いを握りしめて、玩具屋の魅惑的空間の中に入り込み、至悦の迷いの時を過ごした後、妥協として、呪力^{じりょく}に満ちた空間の一部を切り取って戻るとするのは、一定のシナリオを前提とした演劇的な行為としての旅の最も始発の形態であった。だから、この経験は昔話にも反映されて、「桃太郎」説話のごとく、異郷の地、すなわち異類で満ちた空間に赴^{おもむ}き、この空間を征圧し、この空間の呪力のしるしである金銀珊瑚^{きんぎんご}といった宝物を獲得し、故地^{こち}に戻るといった物語的体験として語られるのかも知れない。

別に陳列棚の中の陳列物の一部を切り取って来たわけでもないが、博物館は異郷性に満ちた空間であった。それは、アイヌ文化の万華鏡^{まんげきょう}であったからである。祭礼用具、農耕生産の道具、狩猟の道具、容器、衣服といったまったく見慣れない様々の器具は、異郷への手がかりであるように思われた。もちろん、私たちもアイヌ系の人たちを知らないわけではなかつ

た。最も幼い頃の記憶の一部に残るものとして、鼻の下に入れ墨²⁾をしたアイヌ系の老女が、「ガンピの皮（白樺^{しらび}の樹皮）はいらんかね」と売りに来た姿が、今でも私の網膜に鮮明に焼きついている。こうして異装をまとしてときどき現われる「異人」は、親たちが子どもを脅すのに格好の材料であった。「いうことをきかないと、アイヌのおばさんにあげてしまおうよ」というのが親たちの常套手段^{じょうとうしゅだん}であった。北海道で育った私は、大学に入って島崎藤村の『破戒』を読むまで、この世の中に被差別民として「異質」のイメージを押しつけられて差別されている人たちのいるのを知らなかった。

注 1)：鬼籍・・・閻魔^{えんま}が死者の姓名を記す帳面から転じて、死亡すること。

2)：入れ墨・・・肌に文字や絵画などを彫り付けること。

(山口昌男「旅のはじまり・はじまりの旅」、中村雄二郎・山口昌男著『知の旅への誘い』岩波新書、1981年、114～116頁、文章の一部を省略、また常用漢字やひらがなへの改変をしている。)

問1 アイヌ（アイヌ民族）について300字程度で述べなさい。

問2 社会科教育における博物館や郷土資料館の役割について、あなたの考えを500字程度で述べなさい。